秋桜

近江舞子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
秋桜

【Ｎコード】
Ｎ４５０２Ｌ

【作者名】
近江舞子

【あらすじ】
「暑い、暑い。こう暑くてはかなわない。このままでは干からびてしまう」

「暑い、暑い。こう暑くてはかなわない。このままでは干からびてしまう」

その昔、たくさんの稲穂が垂れる田んぼだった土地は今や一面、コスモス畑に様変わりしていました。国の減反政策の結果です。ただ、田んぼをほったらかしにしておくのももったいないので、地主がなぐさみにとコスモスを植えたのでした。

白やピンクのコスモスたちは夏が過ぎ去りようやく出番の秋が来たというのに、長引く残暑にやられ、連日、嘆いていました。

それに、何より雨が降らないのが彼女たちを苦しめていました。喉がカラカラでしょうがありません。土も割れ、根から飲む水分も底をつきそうです。しょうがなく葉からわずかに大気中の水を吸うばかり。

また、夜になっても湿気で充満していて蒸し暑い。ぐっすり眠ることもままなりません。疲れきった彼女たちが花の仕事でもある歌唄いもできない為、虫たちも声を聴けなくて困っています。

そんなコスモスたちの切なる言葉を天から月が耳をそばだてて聴いていました。そして、戸惑い悲しむ彼女たちにやさしくささやきかけます。

「もうすぐ雨がやってきますよ。西方から暗い雨雲が迫っています」

コスモスたちは歓喜しました。ようやくたらふく水を飲める。待ちに待ったときがやってくる、と。

そして、翌朝、月の言うとおりに雨が訪れました。強く激しかったので根こそぎ流されてしまいそうでしたが、皆なんとか持ちこたえました。

雨水を全身にびしょびしょに浴びたコスモスたちはすっかり生気を取り戻し、また輝き、彩り、そして心からの笑みを取り戻しました。

「よかった。よかった」
彼女たちは口々にそういって、はしゃぎます。そして、歌が始まり、景色は色づいてきました。
そんなコスモス畑の前をひとりの老婆が通りがかり、彼女たちに目を奪われました。
「なんときれいに咲いていることでしょう」
近づいて一輪、一輪を労わるように観察します。
「そうだ。これを病気の孫娘に持っていこう」
手近にあったコスモスを五本ほど摘んで、手に抱えました。
せっかく、咲いたコスモスたち。ですが、彼女たちは悲しみません。
ここで静かに群れているのも心地よい。けれども、見たことのない世界に行って、人様の役に立つのもいいのではないか。
病気の子の笑顔を見られるなら、幸せだ。一生懸命、咲いたかいがあった。
コスモスたちは喜んで老婆の手のひらに包まれ、夕暮れの道を運ばれていきました。

（後書き）

初出：http://www.1000moji.com/content/6269

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4502l/

秋桜

2010年12月30日20時34分発行